

東商けいきょう集計結果

(中小企業の景況感に関する調査)

平成26年7～9月期

平成26年9月24日
中 小 企 業 部

東京の景況は、消費増税の影響等により業種別の回復がばらつくが、先行きは改善を見込む。

- 「業況DI」(前年同期比・全業種)は、前期と比べ3.5ポイント悪化し▲10.3となった。業種別にみると、卸売業は+5.9ポイント、製造業は+0.3ポイント改善した一方、小売業は消費増税後の買い控えや天候不順により-12.4ポイント悪化し、業種別の回復はばらついている。来期の見通し(前年同期比・全業種)は、今期と比べ+12.0ポイントと大きく改善を見込んでいる。
- 「売上DI」(前年同期比・全業種)は、前期と比べ1.2ポイント悪化し▲5.3となった。業種別では、卸売業は設備関連や高付加価値品の好調により+9.2ポイント改善したが、小売業は-13.0ポイントと大きく悪化し、回復が遅れている。来期の見通し(前年同期比・全業種)は、今期と比べ+13.2ポイントと大きく改善を見込んでいる。
- 「採算DI」(今期水準、「黒字」と回答した企業-「赤字」と回答した企業の割合・全業種)は、前期と比べ1.4ポイント悪化し14.1となったものの、10期連続の黒字超を維持した。業種別では、製造業は原材料費や人件費上昇により-5.0ポイント悪化し、小売業は取扱商品の絞り込みや不採算店の閉鎖により+0.9ポイント改善した。
- 「資金繰りDI」(前年同期比・全業種)は、前期と比べ1.9ポイント悪化し▲7.2、「民間金融機関の貸出姿勢DI」(前年同期比・全業種)は、0.8ポイント改善し2.0となった。

【調査要領】

○調査期間：平成26年8月22日～8月29日

○調査項目：業況、売上、採算(経常利益)、資金繰り、民間金融機関の貸出姿勢

○回答数：956社(回答率39.0%)

○調査対象：東京23区内の中小企業2,454社

○調査方法：FAXおよび経営指導員による聴き取り

＜業種構成＞・製造業228社(23.8%)・建設業107社(11.2%)・卸売業154社(16.1%)・小売業112社(11.7%)・サービス業355社(37.1%)

※ 本集計結果におけるDI値とは、「好転」「良い」「増加」「好調」「黒字」「緩和」「緩い」と回答した企業-「悪化」「悪い」「減少」「不調」「赤字」「厳しい」と回答した企業の割合。

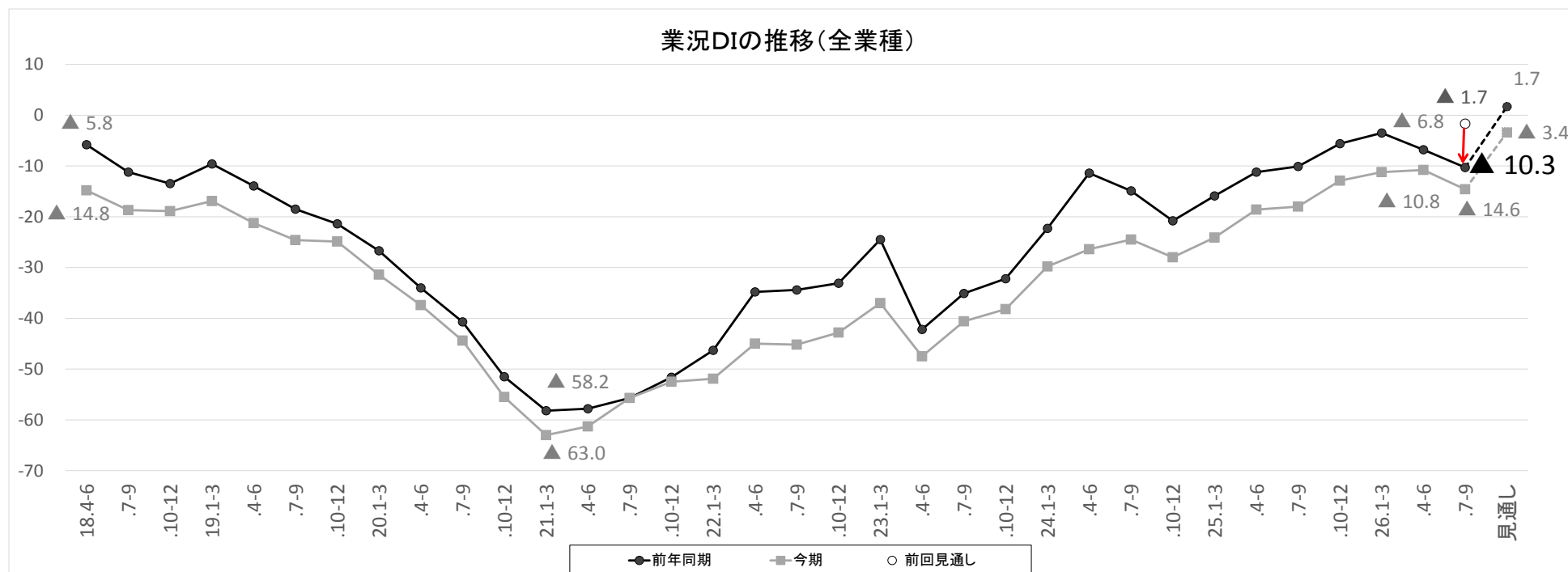
※ 全ての質問について、割合は四捨五入を行っているため、必ずしも合計が100.0%にならない。

※ 本調査結果の集計にあたっては、独立行政法人中小企業基盤整備機構が実施している「中小企業景況調査」の調査結果を一部活用している。

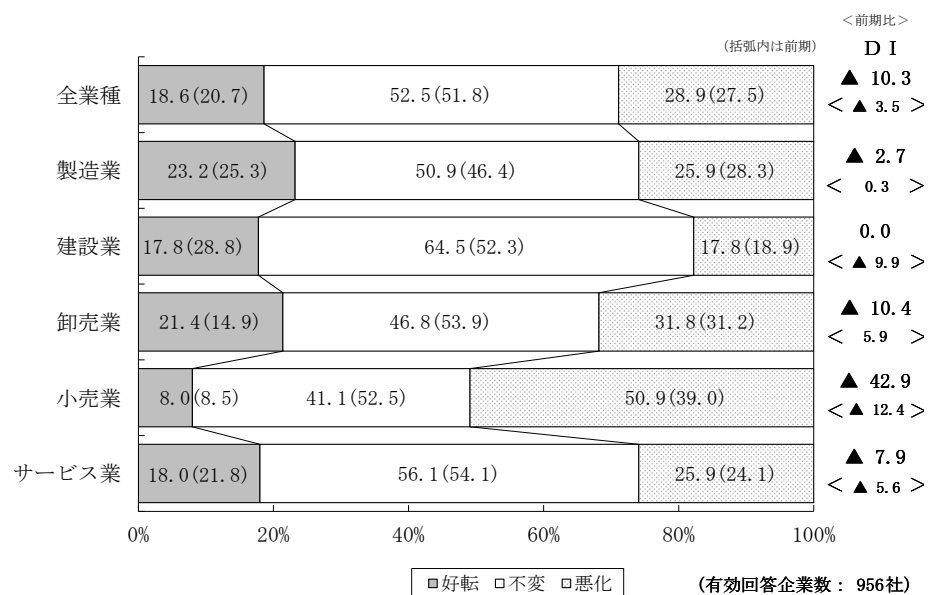
1. 業況

○「業況DI」（前年同期比・全業種）は、前期と比べ3.5ポイント悪化し▲10.3となった。業種別にみると、卸売業は+5.9ポイント、製造業は+0.3ポイント改善した一方、小売業は消費増税後の買い控えや天候不順により－12.4ポイント、サービス業は運輸業の人手不足と燃料コスト上昇等により－5.6ポイント悪化し、建設業は－9.9ポイントとなったが、「好転」から「不変」への変化が主因であり実体はほぼ横ばいとなり、業種別の回復はばらついている。来期の見通し（前年同期比・全業種）は、今期と比べ+12.0ポイントと大きく改善を見込んでいる。

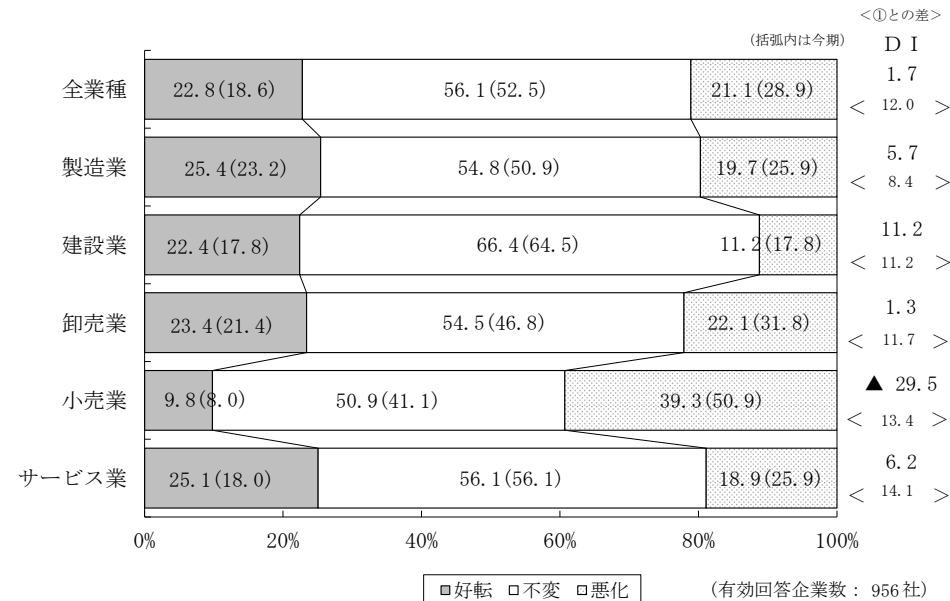
【企業の声】 新規製造工場との取引を始め、新製品開発と製造を行っており、サンプルをもとに新規顧客の獲得につなげている。（卸売業：化粧品）
自動車関連なので、売上、利益とも好調。この状態が急に悪化するとは考えにくい。（製造業：自動車関連、油圧シリンダ）
消費増税や天候の影響もありかなり不調であるが、来期は（好調な季節なので）好転を見込んでいる。（小売業：インテリア雑貨）
燃料高やドライバー不足のため、厳しい状況と考える。（サービス業：運輸）
今期は受注残があり順調に推移しているが、第三、四半期の公共工事の発注が遅れている。都や国等の発注に期待。（建設業：電気工事業）



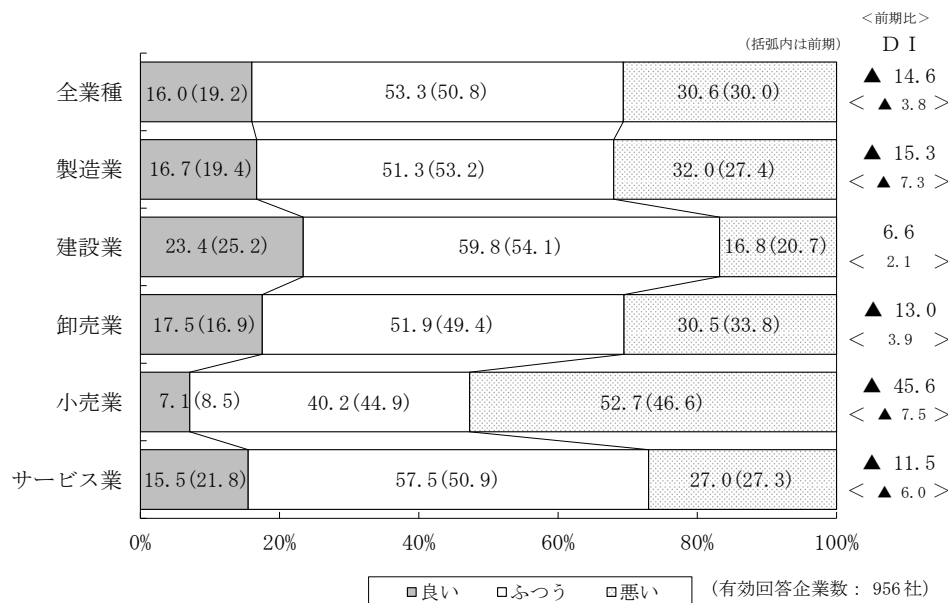
①今期の業況（前年同期比）



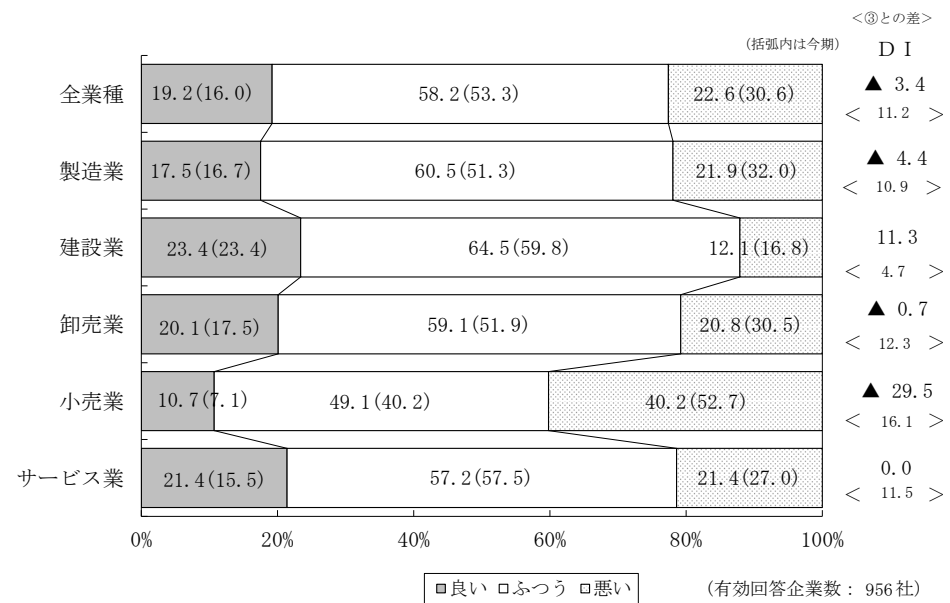
②来期の業況の見通し（前年同期比）



③今期の業況（水準）



④来期の業況の見通し（水準）



2. 売上

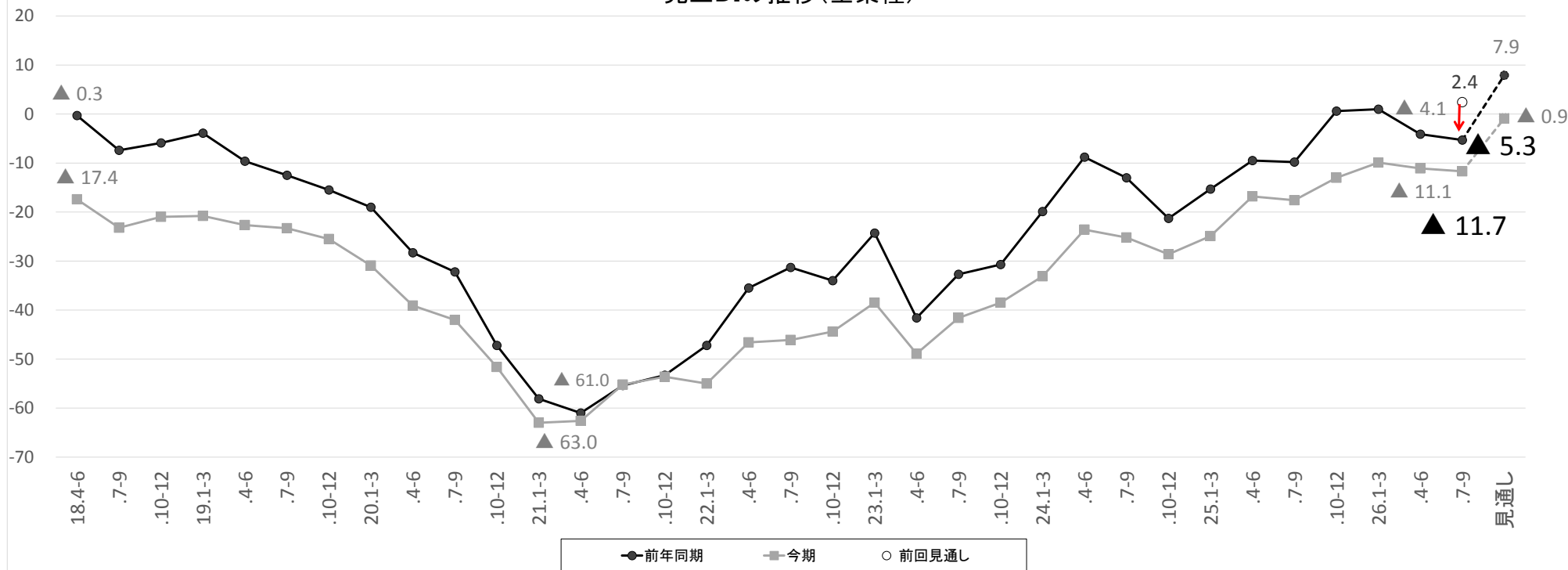
○「売上DI」（前年同期比・全業種）は、前期と比べ1.2ポイント悪化し▲5.3となった。業種別では、卸売業は設備関連や高付加価値品の好調により＋9.2ポイント改善したが、小売業は－13.0ポイントと大きく悪化し、回復が遅れている。建設業は人手不足や資材価格上昇により工事受注ができず－7.0ポイント悪化したもののプラス水準を維持している。来期の見通し（前年同期比・全業種）は、今期と比べ＋13.2ポイントと大きく改善を見込んでいる。

【企業の声】国内企業の設備は老朽化が進み、更新需要が高まっているため、売上は増加している。（卸売業：産業機械）

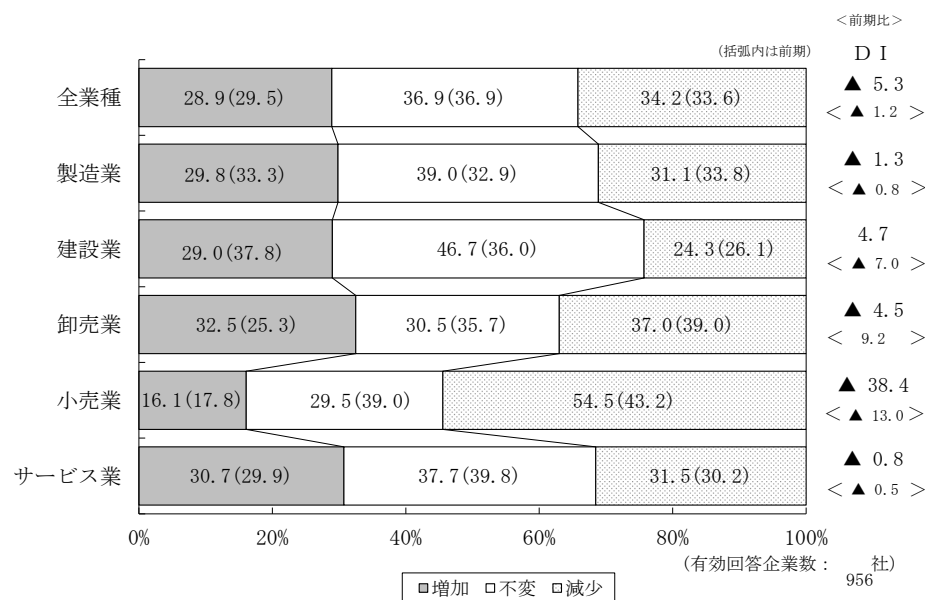
消費増税後の景気低迷、ネット販売や量販店との競争激化により売上減少。（小売業：スポーツ用品）

労務者不足、資材の高騰により建築工事の受注を控えているため、売上が予想以上に厳しい。（建設業：冷暖房設備、給排水衛生設備工事）

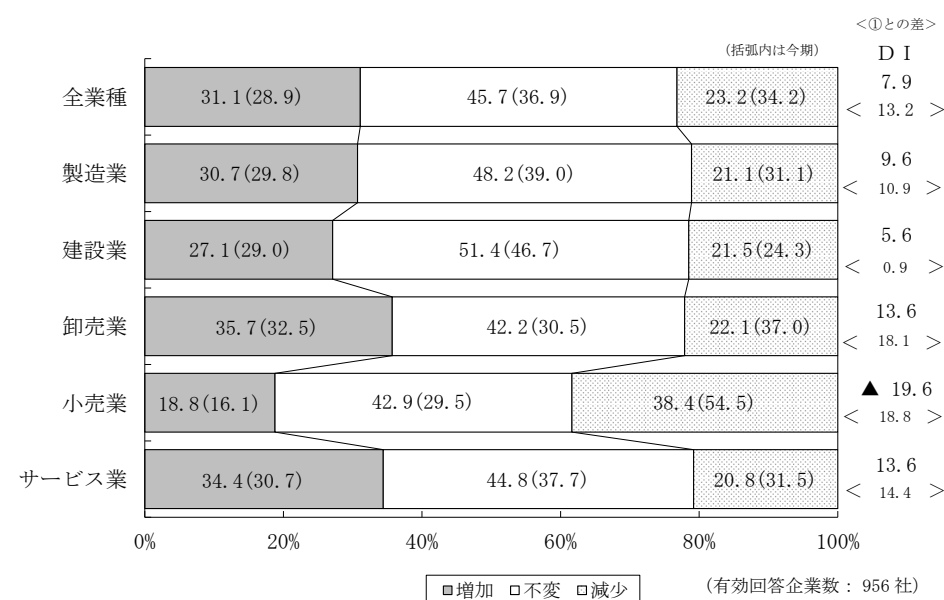
売上DIの推移（全業種）



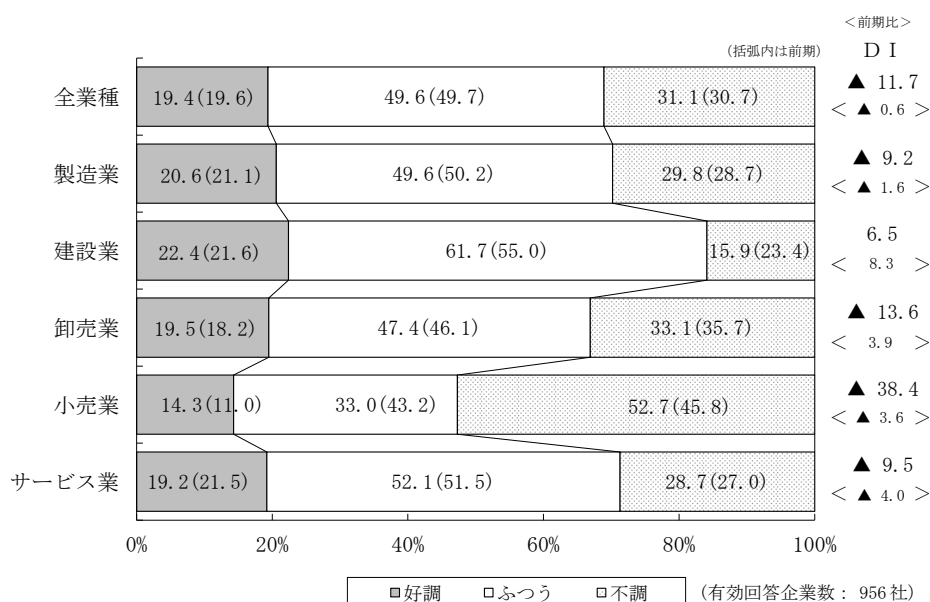
①今期の売上（前年同期比）



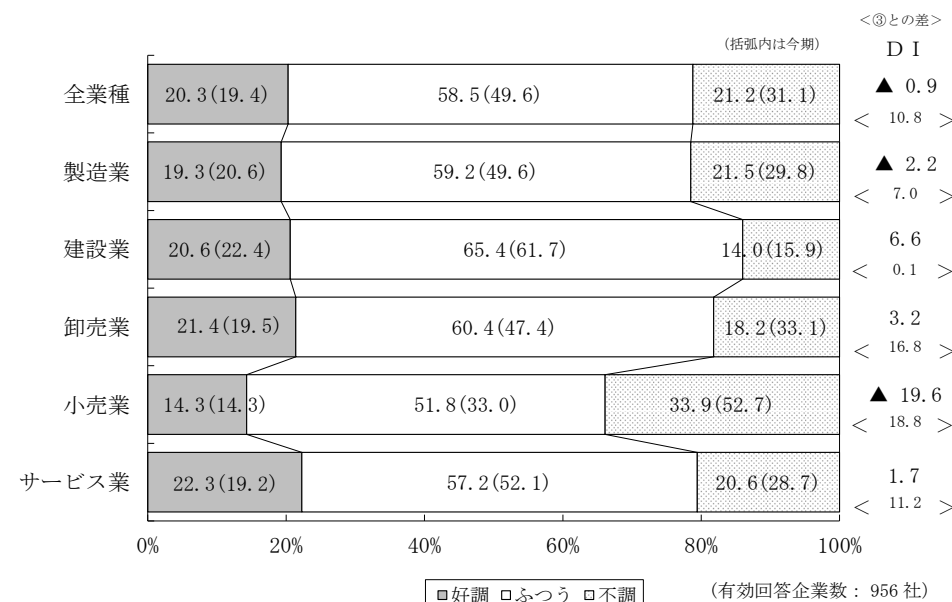
②来期の売上の見通し（前年同期比）



③今期の売上（水準）



④来期の売上の見通し（水準）



3. 採算（経常利益）

○「採算DI」（今期水準、「黒字」と回答した企業－「赤字」と回答した企業の割合・全業種）は、前期と比べ1.4ポイント悪化し14.1となったものの、10期連続の黒字超を維持した。業種別では、製造業は原材料費や人件費上昇により－5.0ポイント、サービス業も－6.3ポイント悪化した。建設業は選別受注をする企業も多く＋12.1ポイント、小売業は取扱商品の絞り込みや不採算店の閉鎖により＋0.9ポイント改善した。

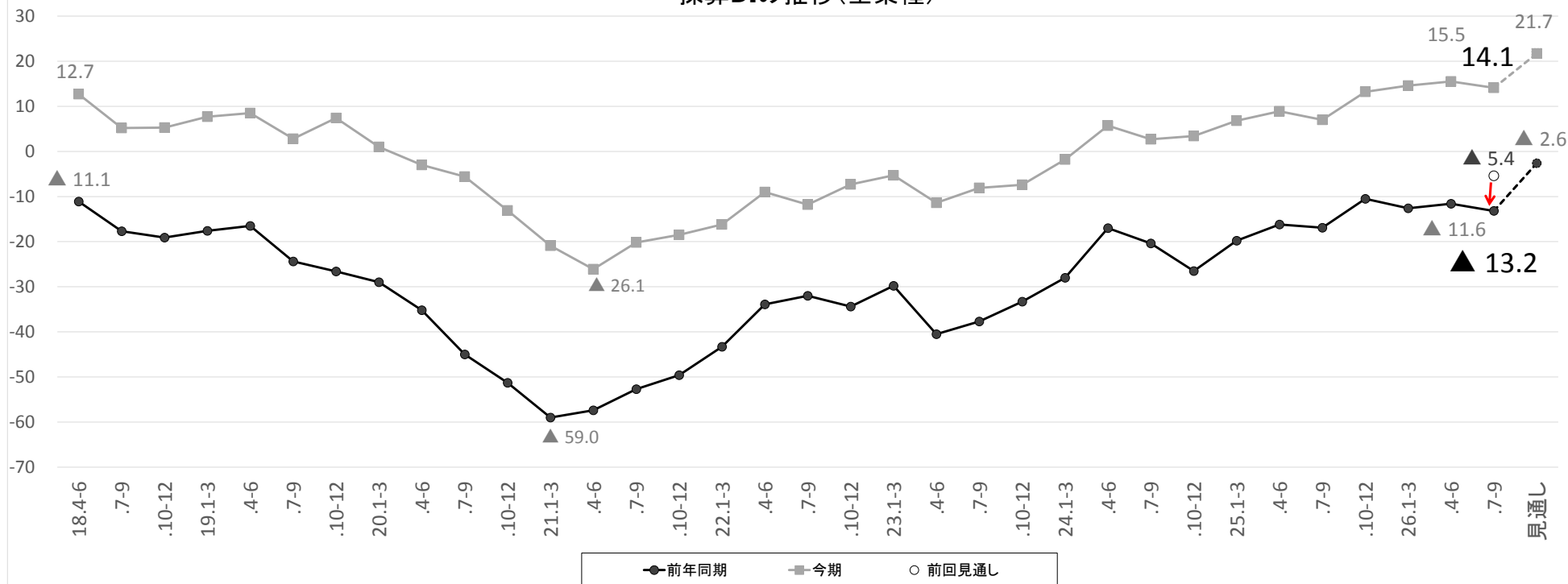
【企業の声】 外注費用が上昇し、負担が多くなり利益の上昇はない。赤字と黒字を行き来している。（製造業：印刷物全般）

売上は伸びるが、コスト増が続く利益が出にくくなっている。特に人件費、食材費上昇は厳しい。（サービス業：すき焼きレストラン）

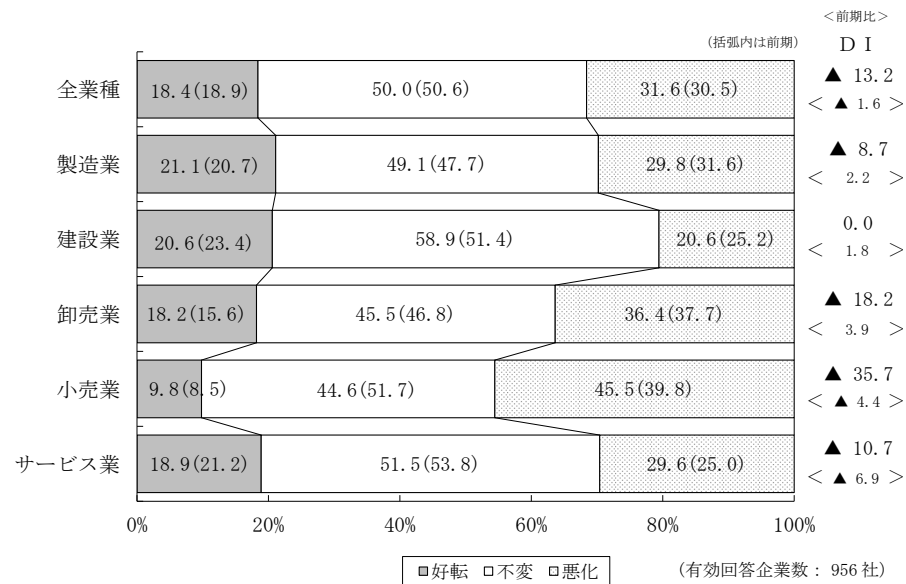
工事量の増加に伴い、好採算物件を選別受注できるようになった。（建設業：電気設備工事請負）

取扱商品の絞り込みや不採算店の閉鎖により、採算を維持している。（小売業：酒類、食品・ガソリン、軽油）

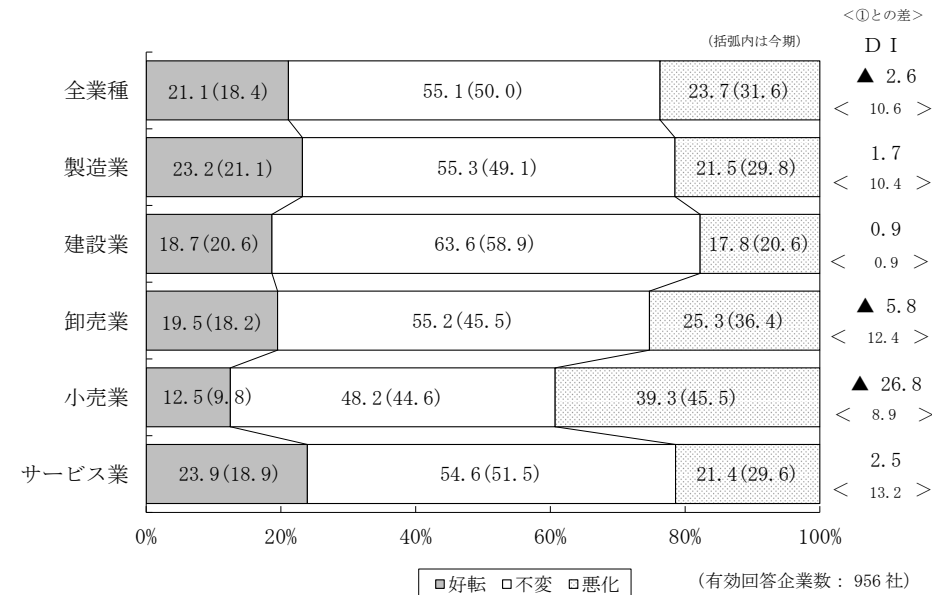
採算DIの推移（全業種）



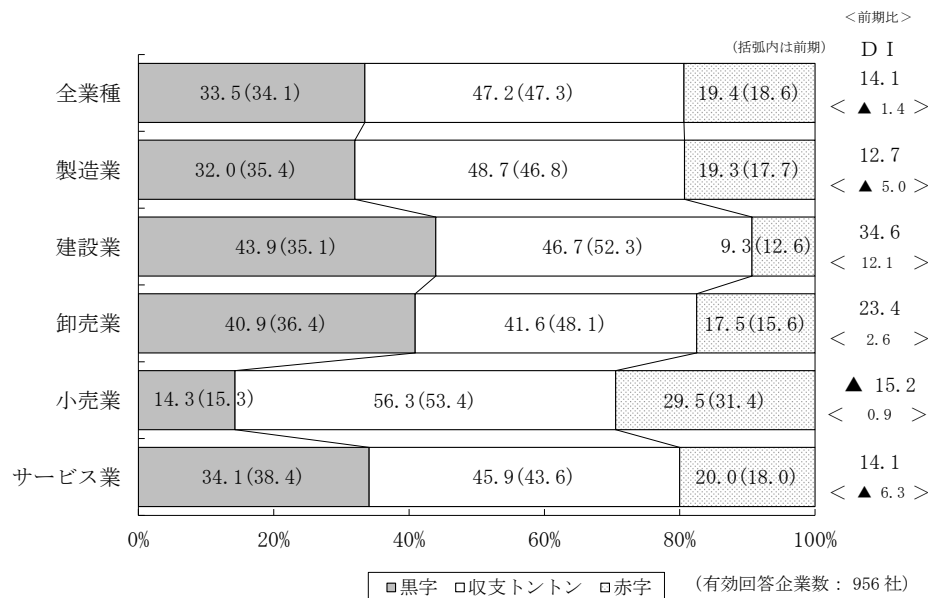
①今期の採算（前年同期比）



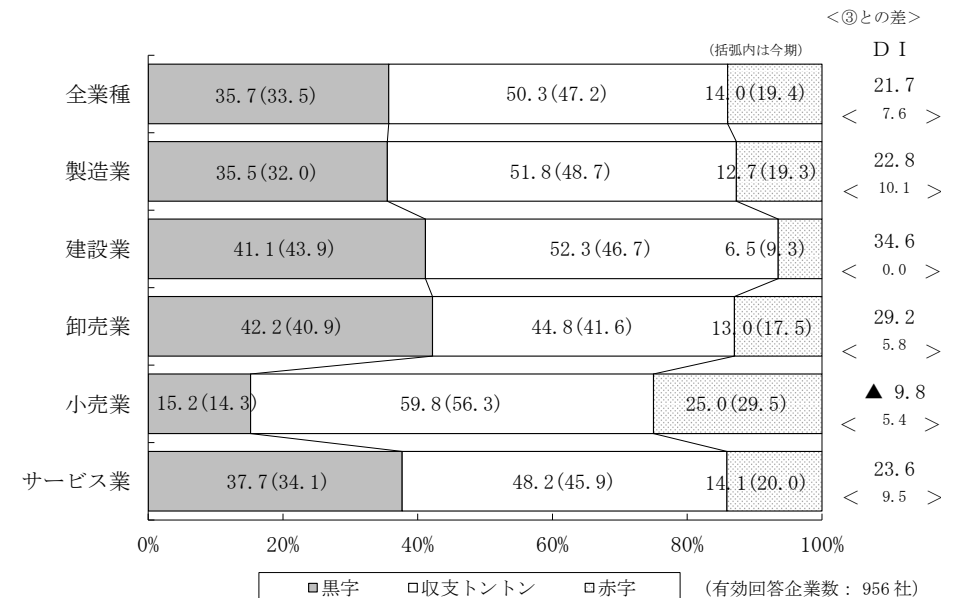
②来期の採算の見通し（前年同期比）



③今期の採算（水準）



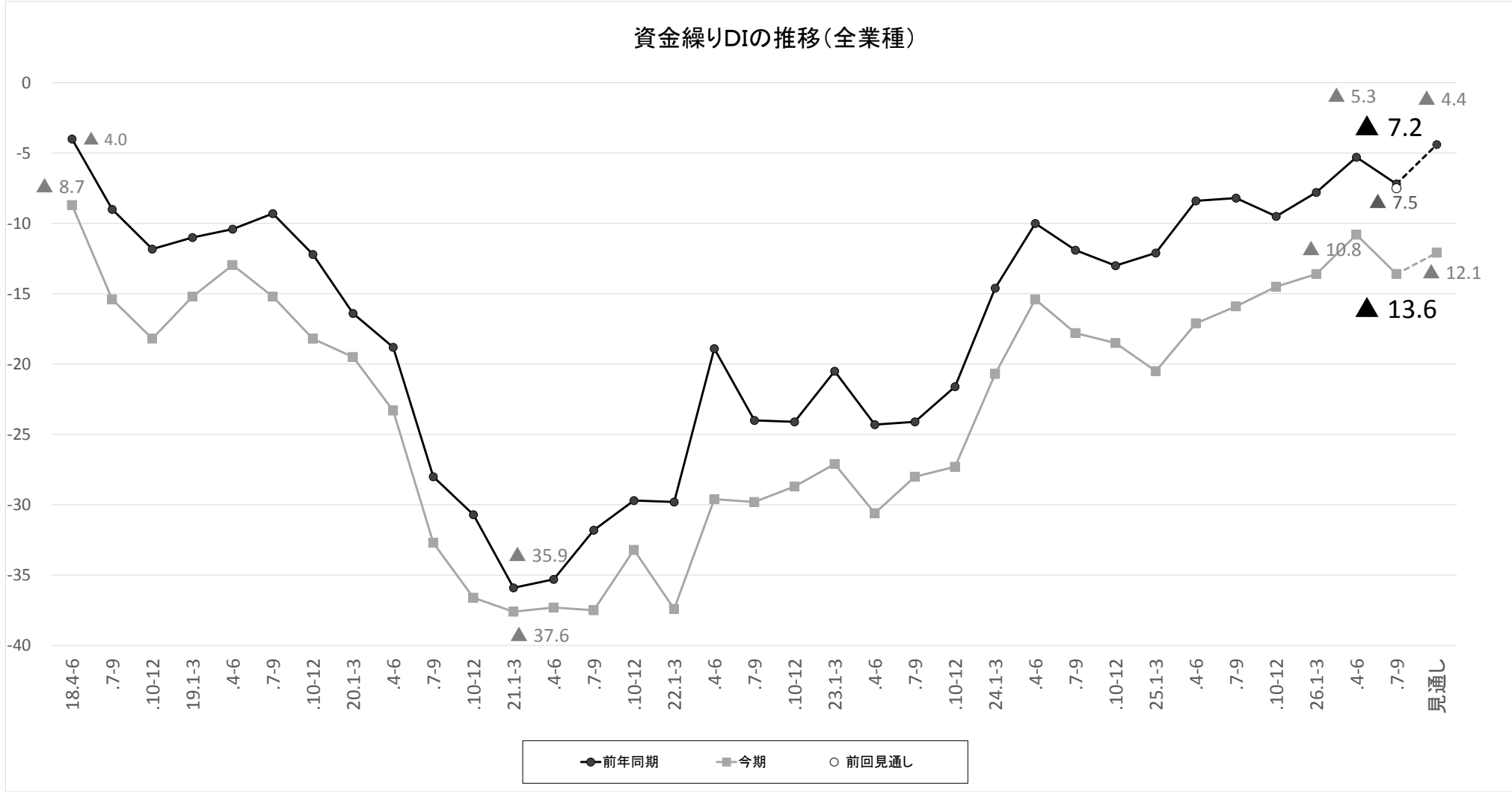
④来期の採算の見通し（水準）



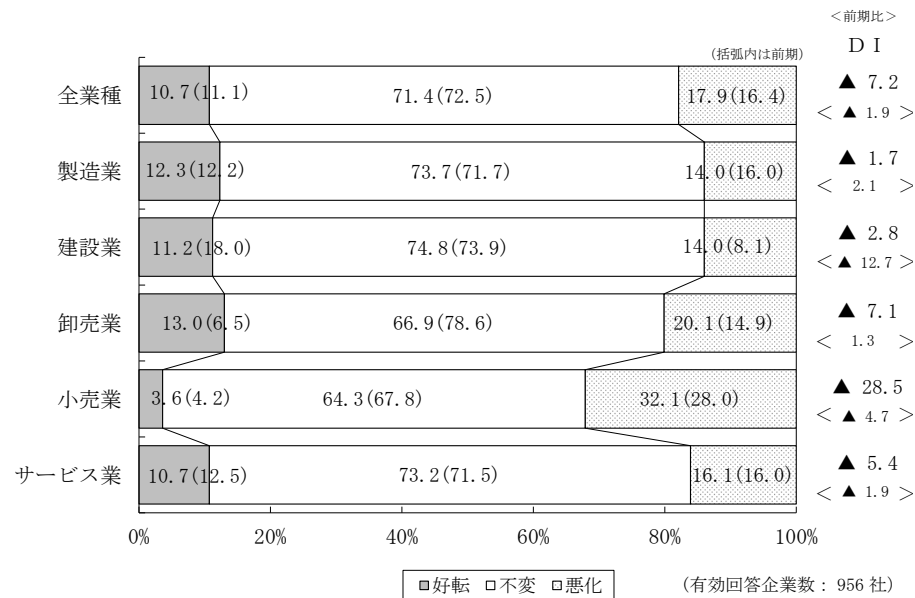
4. 資金繰り

○「資金繰りDI」(前年同期比・全業種)は、前期と比べ1.9ポイント悪化し▲7.2となった。

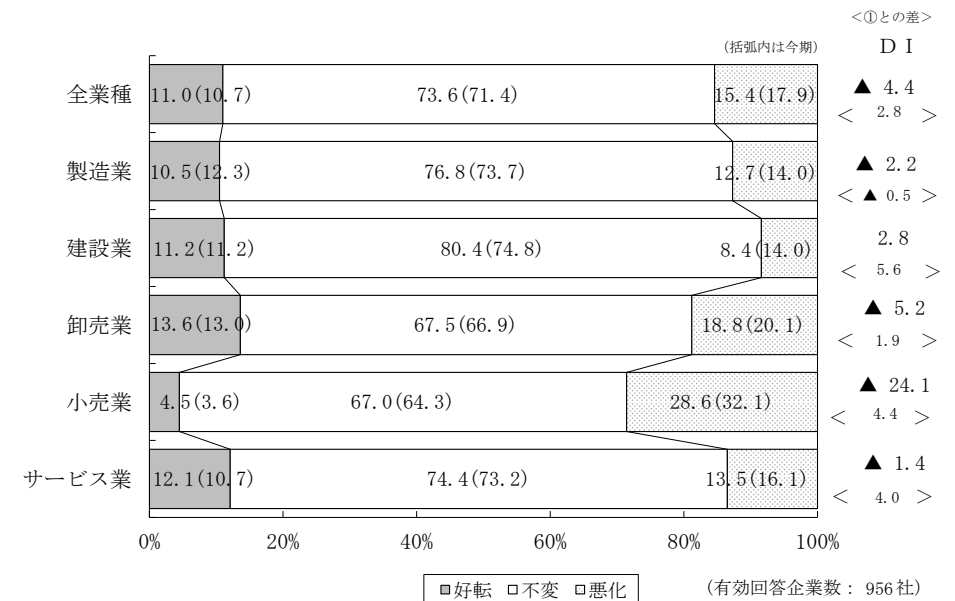
資金繰りDIの推移(全業種)



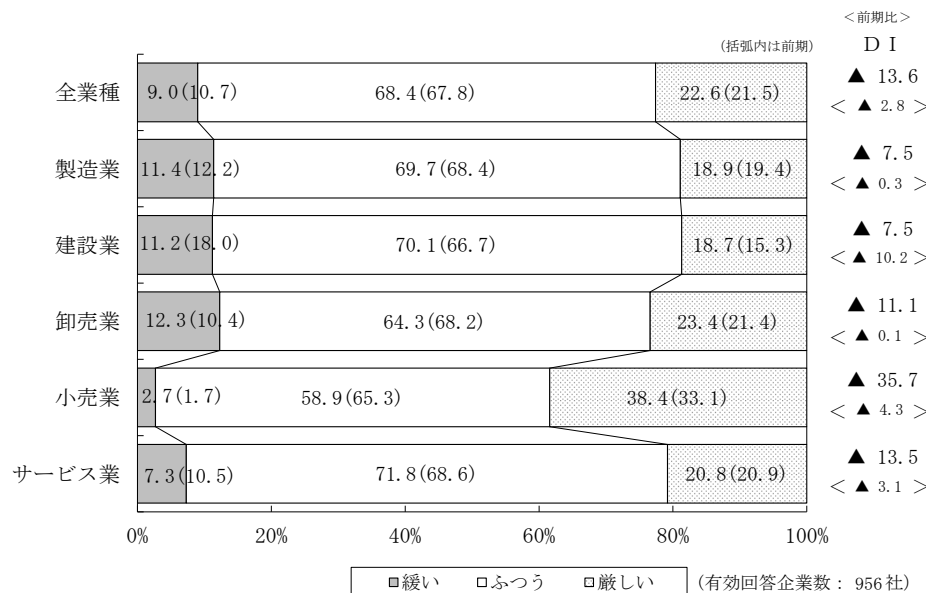
①今期の資金繰り（前年同期比）



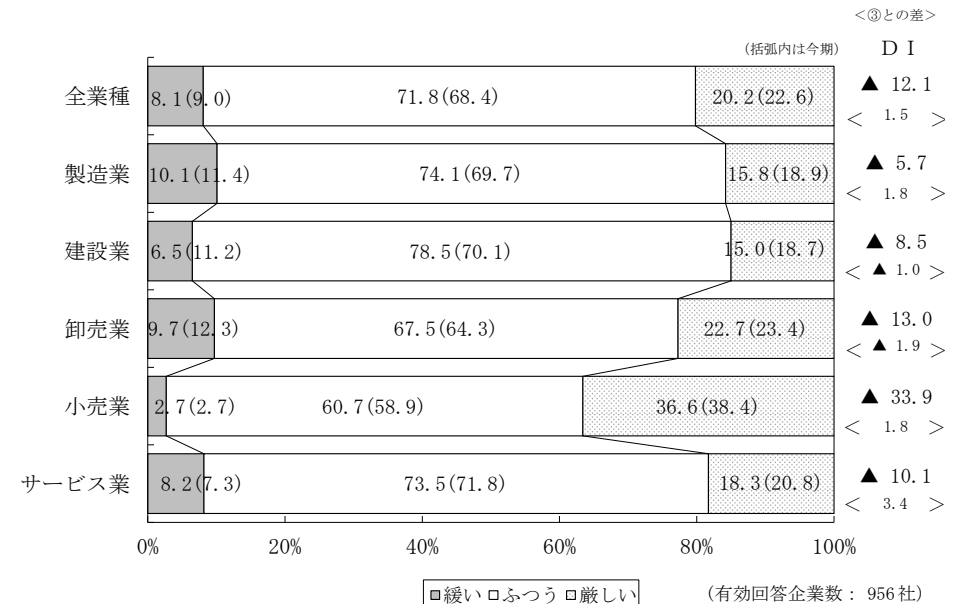
②来期の資金繰りの見通し（前年同期比）



③今期の資金繰り（水準）



④来期の資金繰りの見通し（水準）



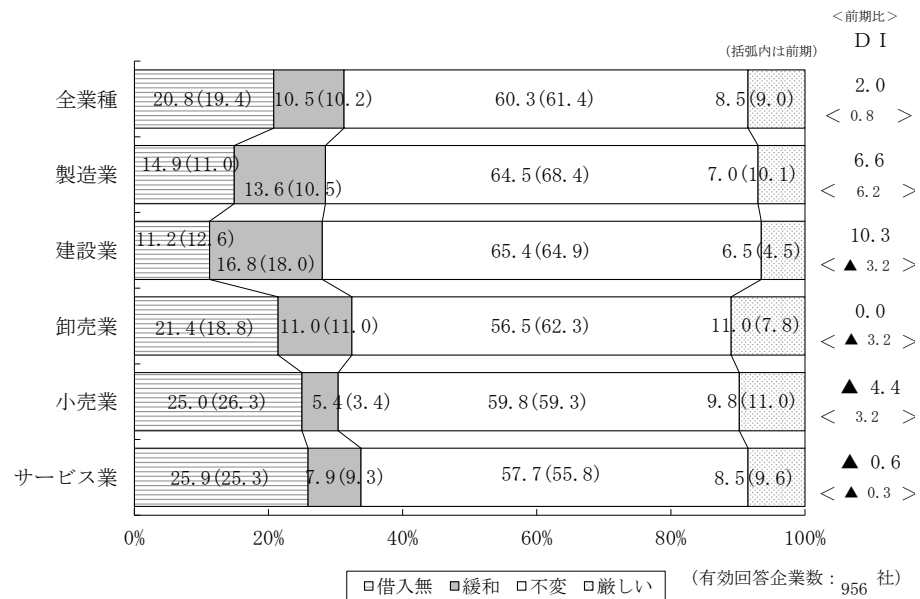
5. 民間金融機関の貸出姿勢

○「民間金融機関の貸出姿勢DI」（前年同期比・全業種）は、前期と比べ0.8ポイント改善し2.0となった。

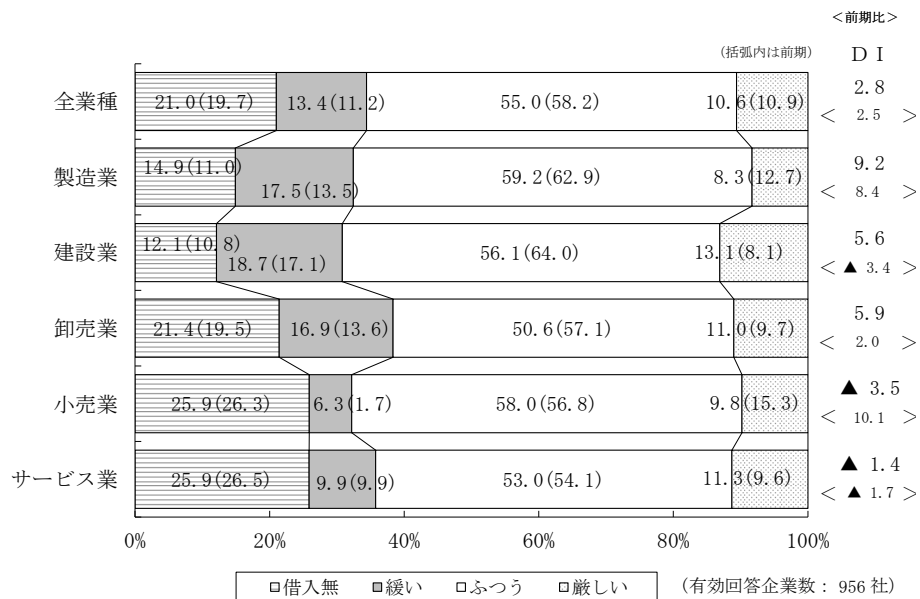
貸出姿勢DIの推移(全業種)



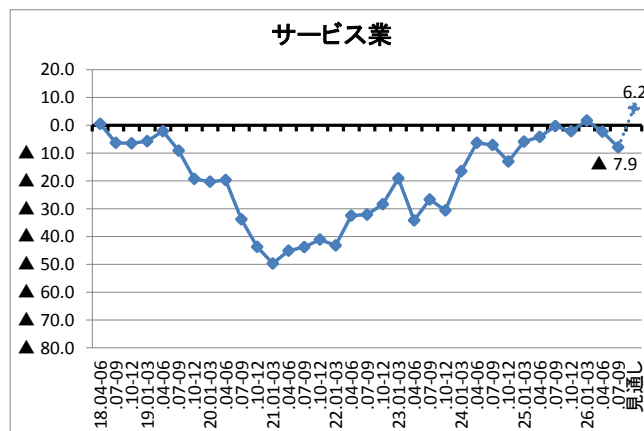
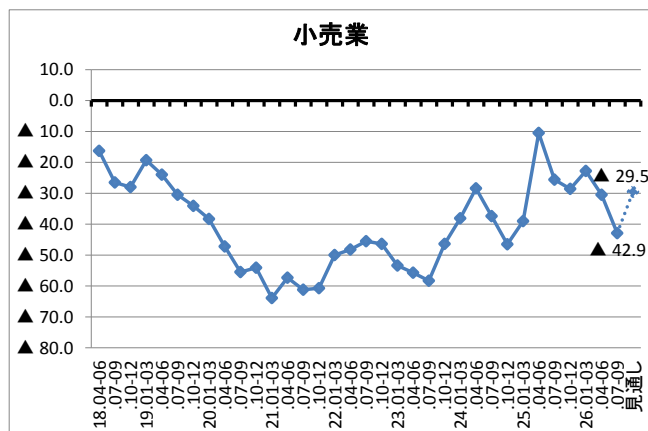
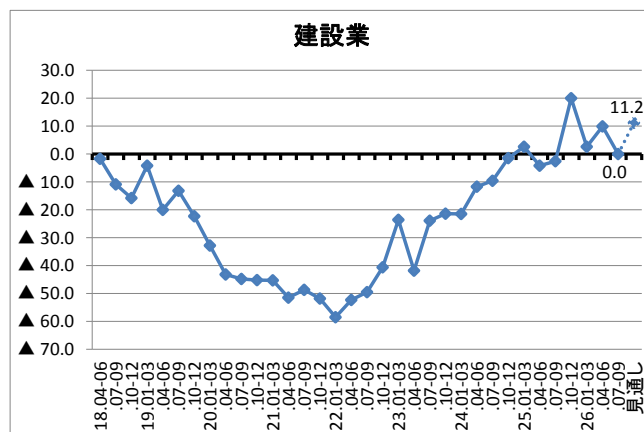
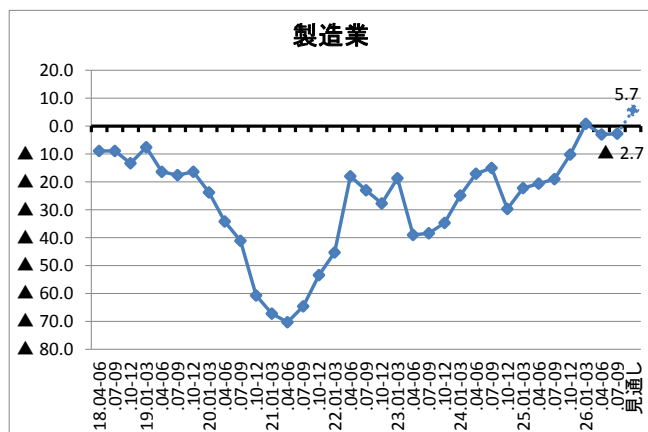
①民間金融機関の貸出姿勢（前年同期比）



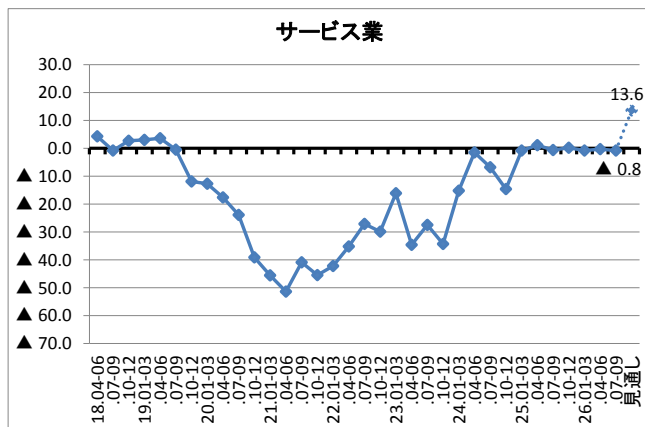
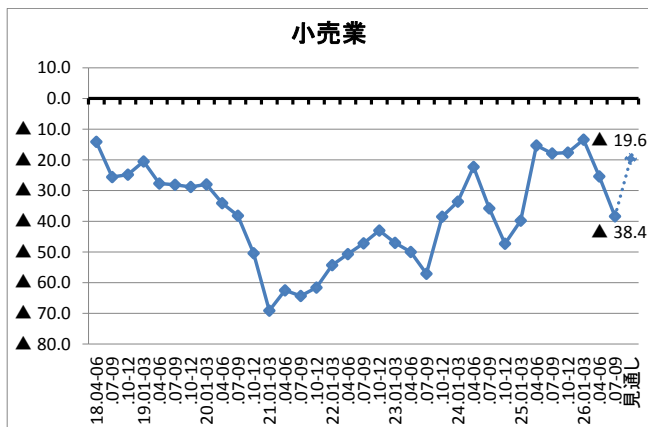
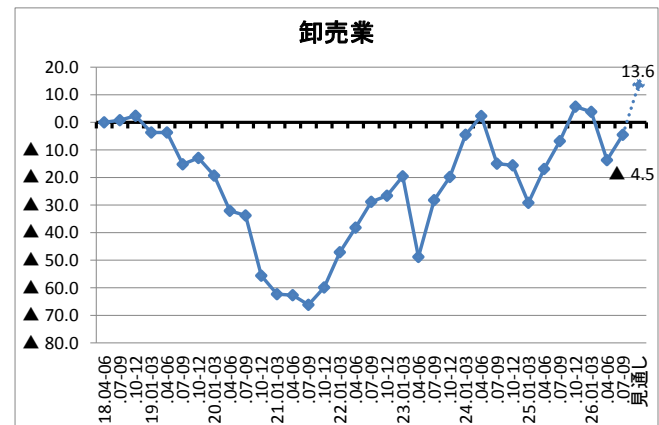
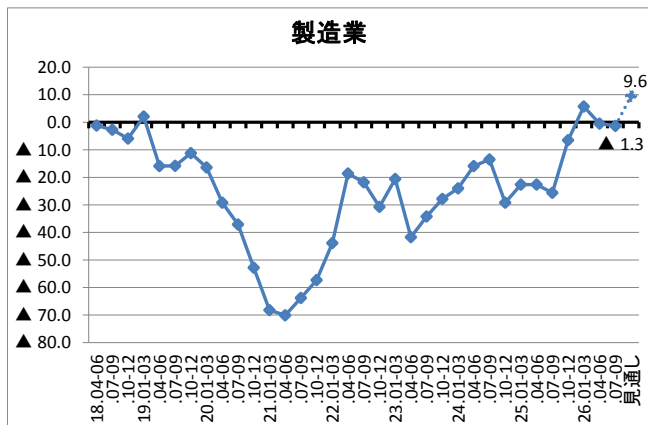
②民間金融機関の貸出姿勢（今期水準）



参考1＜業況D I 業種別・前年同期比＞



参考2＜売上D I 業種別・前年同期比＞



参考3＜採算D I 業種別・今期水準＞

